

次世代ラボを開発する「COTO LABO コンソーシアム」に参画 オリンパス、オープンイノベーションで再生医療研究の産業応用促進に貢献

オリンパス株式会社(社長:竹内 康雄)は、オープンイノベーション^{※1}の一環として、iPS 細胞を活用した創薬・再生医療研究を促進するための新たなプラットフォームとなる、次世代ラボ・システムの開発を目指す「COTO LABO(コトラボ)コンソーシアム」に参画しました。当社は、本コンソーシアムにおいて、当社顕微鏡製品の活用だけにとどまらず、現在研究開発中の細胞培養モニタリング技術などを利用した、新たな細胞培養ソリューションの創出と提供をしていきます。また、コンソーシアム参画各社との技術・製品・サービスの共創を通じて、次世代ラボの早期実用化を目指します。

※1 当社のイノベーション推進で取り組む X INNOVATION(クロスイノベーション=共創)の活動

「COTO LABO(コトラボ)コンソーシアム」について

1. 目的

高度な「透明性」「再現性」「効率性」を具備した次世代ラボの社会実装に向けた技術開発

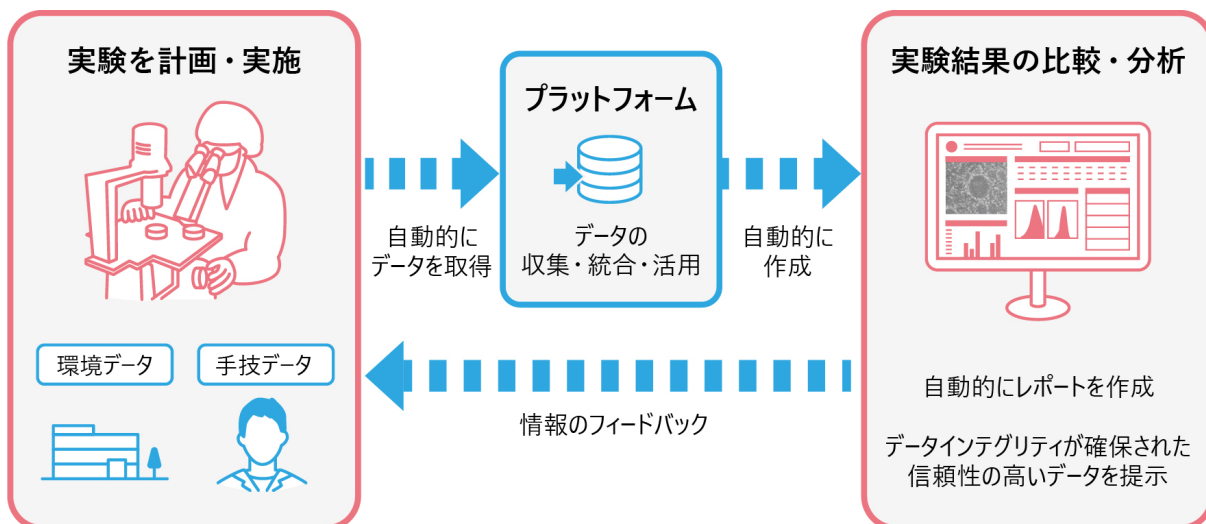
2. 背景と設立意義

ライフサイエンス研究においては、実験の再現性が十分に得られないケースや、実験データの信憑性から技術トランスファーがうまくいかない等の問題が発生することがあり、それが研究の非効率化だけでなく、研究成果自体に対する疑義につながっている面がありました。本コンソーシアムは、ライフサイエンス分野におけるデータ信頼性担保の重要性に賛同する 8 社が、業界の枠を超えて結集した共同開発体です。各業界を代表する参画企業の高い技術を 1 つのラボ・システムとして統合することで、これまでになかった新たな価値(「透明性」「再現性」「効率性」)を持つ次世代ラボを作り出すことが可能となります。次世代ラボの社会実装は、ライフサイエンスの基礎及び応用分野でのデータ信頼性を高めることを通じて、ヘルスケア産業全体の発展につながることを期待されます。

3. 開発内容および今後の展望

本コンソーシアムで開発する次世代ラボは、主として基礎/探索研究レベルの実験のデータ統合および管理を目的としたラボです。具体的な開発内容としては、各参画企業が共同で、実験操作の正確性/トレーサビリティを評価可能な新規システムの開発、本システムおよび新たな環境基準を組み込んだモデルラボの構築に取り組んでいます。今後は、モデルラボの設置および想定顧客によるモデルラボの価値検証を実施することで、次世代ラボの社会実装に向けた準備を進めていきます。

なお、次世代ラボの開発は、株式会社 iPS ポータルの顧問である大阪大学大学院工学研究科の紀ノ岡正博教授のアドバイスを受けながら進めております。



「次世代ラボの概念図」

4. 参画企業(50音順)

- ・株式会社 iPS ポータル (事務局)
- ・アース環境サービス株式会社
- ・株式会社 NTT データ
- ・オリンパス株式会社
- ・株式会社片岡製作所
- ・株式会社島津製作所
- ・大成建設株式会社
- ・株式会社日立産機システム



オリンパスは本年 10 月 12 日に創立 100 周年を迎えます。これまで当社の発展を支えてくださったお客さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまに心より感謝申し上げます。これからも世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を通して、社会に貢献してまいります。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。